

平成25年度 JCOMM賞の受賞者発表

JCOMM
AWARD

JCOMM実行委員会では、平成25年4月12日までにご応募・ご推薦をいただいた取り組み・研究について、厳正に審査し、プロジェクト賞2件、デザイン賞1件、マネジメント賞1件、技術賞1件をそれぞれ平成25年度JCOMM賞として選定いたしました。対象者には、第8回JCOMMにて表彰を行います。また、会期中には受賞内容の展示も行われます。

JCOMM AWARD プロジェクト賞

■「社員プロジェクトチームによる顧客満足度向上、及びMM技術を応用した観光行動変容の取組み」

(江ノ島電鉄株式会社、江ノ電ブランドプロジェクトサポートチーム(江ノ電商事株式会社、大和小田急建設株式会社、株式会社環境情報、株式会社玄、株式会社浜田広告社))

■「神門通りの出雲大社門前にふさわしい風格とにぎわい再生事業」

(島根県土木部出雲県土整備事務所、島根県土木部都市計画課、出雲市産業観光部観光交流推進課、出雲市都市建設部まちづくり推進課、神門通り廻りの会、鈴木春菜、桑子敏雄、株式会社バイタルリード、脇田祥尚、橋本成仁、宇佐美淳、小野寺康、南雲勝志)

JCOMM AWARD デザイン賞

■「甲府北部地域バスマップ」

(甲府市企画部リニア交通室交通政策課、名取優太(山梨県庁(前山梨大学)), 長田美月(フジタ(前山梨大学)), 小野絵美(甲州市役所(前山梨大学)), 佐々木邦明(山梨大学))

JCOMM AWARD マネジメント賞

■「八戸市・圏域内における多方面かつ戦略的公共交通利用促進マネジメント」

(八戸市、八戸市地域公共交通会議、八戸圏域公共交通計画推進会議、株式会社メディアシティ、株式会社KCS、有限会社イニシオ、パンフィックコンサルタンツ株式会社、一般社団法人北海道開発技術センター)

JCOMM AWARD 技術賞

■「地方都市における健康支援に着眼した一連の低炭素交通政策導入に関する有効性の評価」

(真坂美江子(阿南工業高等専門学校)、加藤研二(阿南工業高等専門学校)、近藤光男(徳島大学大学院)、奥嶋政嗣(徳島大学大学院))

JCOMM賞についての情報は、HPにも掲載しております。
各賞の概要や評価基準・詳細等はHPをご覧ください。
(<http://www.jcomm.or.jp/>)

第8回JCOMMは、仙台市にて、七月十二日(金)、七月十三日(土)に仙台市民会館で開催いたします。仙台市では、「せんだいスマート」をキャッチフレーズに、市民・交通事業者・企業・学校・NPOなどと協働で幅広く、多様な取り組みを推進していま

ます。皆様のご参加をお待ちしております。また、昨年度と同様に、今年度のJCOMMは、土木学会CPD(継続教育)プログラムとして申請し、認定を受けました(両日参加の場合十三・五単位)。ぜひご参加の上、MMの情報交換の場として活用ください。



日本モビリティ・マネジメント会議
ニュースレター

Vol.28 ● 2013.6.30

【発行】 JCOMM実行委員会
ニュースレター編集部
【お問合せ】 筑波大学 谷口綾研
大阪大学 松村研

mail: info@jcomm.or.jp

MMに関連する会告掲載希望やご意見等、
随時受け付けております。

参加申込方法

1) 氏名、2) 所属/勤務先、
3) 連絡先(住所・e-mail・Eメール
アドレス)をJCOMMホーム
ページ上の参加申込フォームより
送信してください。

▼参加費(資料代含む) 三千元



第8回 JCOMM in 仙台 プログラム

● 1日目 7月12日(金)

10:00-12:00	開催地企画 会場：仙台市民会館、以下同会場
12:00-13:00	昼食・休憩
13:00-15:10	オープニングセッション 歓迎アトラクション・挨拶・ 市長講演・JCOMM賞各賞授賞式
15:10-16:15	ポスターセッションA
16:15-17:15	口頭発表1(3編)「震災とMM」
17:15-18:15	口頭発表2(3編)「MMの戦略的な展開」
18:30-	意見交換会(懇親会)

開場時間中、平成24年度JCOMM賞受賞者の展示も同時に行います。

● 2日目 7月13日(土)

09:00-10:00	口頭発表3(3編)「観光・余暇・買い物活動とMM」
10:10-11:10	口頭発表4(3編)「多様な主体によるMM」
11:10-12:10	口頭発表5(3編)「MMと情報化」
12:10-13:30	昼食・休憩・総会
13:30-14:40	ポスターセッションB
14:40-15:40	口頭発表6(3編)「MMの継続」
15:40-16:00	クロージングセッション

開場時間中、平成24年度JCOMM賞受賞者の展示も同時に行います。

*ポスター発表、口頭発表、特別セッションの詳細は、JCOMMのHPをご参照下さい。(http://www.jcomm.or.jp/)

イベント報告

欧州モビリティ・マネジメント

会議報告

五月末にスウェーデンのイエブレ市で開催された欧州モビリティ・マネジメント会議の報告です。日本のMMは心理学の知見と学術的なエビデンスを背景に発展してきましたが、欧州のMMはそれに加えてマーケティング的な要素をも重視しているようです。楽しくて、くすつと笑えてしまうような公共交通の利用促進キャンペーンの事例を中心にご紹介したいと思います。

netbuss社のバス利用促進

netbuss社はノルウェー最大のバス事業者で、ノルウェー、スウェーデン、デンマークの各国で路線バス事業を展開しています。“Bus 4 You”をキャッチコピーに様々な広告やイベントを開催し、日常生活で、車に代わる選択肢としてのバスをより魅力あるものにするべく努力を続けているそうです。テレビ広告も行っており



(http://www.youtube.com/watch?v=e3umdiOXe_E) 一見ただけではわかりにくいかもしれませんが、バスの顧客それぞれに様々なドラマがあることがわつと伝わってきます。

今年のレンタインデーには、オーブン・マイندな顧客たちのために、彼らが愛を探していることを示す席を設けたそうです。展示では、「バスはまぎれもなく出会いの場です。バスはスリルに欠ける、などと、誰が言ったのでしょうか？」と結ばれていました。

ほかにも、イエブレ市民に愛されているローカルなアイス・ホッケー・チームの選手が印刷されたバスチケットを販売しています。バスチケットとして使った後は、コレクターズ・アイテムとなると同時に、バス利用のリマインダーにもなるのだそうです。



Voting(投票)のあやう...

次はベルギーのルーヴェン(Leuven)での取り組みを紹介します。

歩行者モールに突如現れた投票ブースで、道行く人々は、一か月後に控えた選挙に行く時の交通手段について、投票を要請されます。投

票ブースは衣料品店の試着スペースくらいの広さで、入り口にはカーテンがかかり、どの交通手段に投票したか、外からは見えないようになっています。

あなたが自転車か徒歩を選択したら、十人ほどの若くかわいいチアガールと三十四名のブラスバンドに応援され、褒めちぎられます。クルマを選択したら、サイレン音と煙に見送られます。

このイベントのビデオクリップは、YouTubeにアップされ、フェイスブックやツイッターで広まり、テレビや新聞でも報道されました。これにより、選挙に行く時は環境にやさしい交通手段で行こう、とアピールできたようです。

この予算はルーヴェンの属するフレームス・ブラバント州から出ており、スタッフの件費を含めてトータル七千ユーロのこと。ローカルなチアガール・グループはチョコレート二つずつ、ローカルなバンドはビール二本ずつで、大喜びで協力を承諾してくれました。

<http://www.mobiel21.be/en/content/viral-campaign-encourages-voters-walk-or-cycle>

二〇一四年度ECOMMは、五月中旬にイタリアの花の都フィレンツェ(フローレンス)で開催されるそうです。

ベビーカーでの公共交通利用の是非が、我が国でも話題になっていきます。その多くがベビーカー利用者のマナーやモラルに言及したのですが、ここ、スウェーデンでは少し事情が違うようです。

カールスタッドは人口八万七千人、主要産業は製紙業と大学のまちです。

カールスタッドを含む、スウェーデンのいくつかのまちではベビーカー連れのバス運賃は無料です。ベビーカーと乗っている赤ちゃん、それを押す保護者すべての運賃が無料なのです。これは、「前ドアから乗車し運賃を支払って、中ドアと後ドアから降車する」というシステムであること、ベビーカー、車いすスペースが中ドア周辺に設置されていることに伴う措置であったようです。中ドアからベビーカーが乗車した場合、ベビーカーの中の子どもを置いて前方で運賃を支払わなければならない、子どもの安全性を損なう可能性があり望ましくないということでしょう。さらに、ベビーカー用スペースが埋まっている場合、次のバスを待つ必要

まちと交通 vol.11
カールスタッド・バスとベビーカー

があるため、その補完措置という側面も存在したようです。一方で高齢者や身体障害者はそうした運賃に関する優遇措置が無く、一般の乗客と同様の運賃を負担しており、カールスタッドでは高齢者や身体障害者からの苦情を含むさまざまな議論があったそうです。

そして二〇一二年十二月、カールスタッド・バスはベビーカー運賃の有料化に踏み切りました。二〇一二年六月に中ドアにも運賃収受システムを設置したことで、ベビーカーが無料であることに対して、公平・公正といった観点からさらなる疑問の声があがるようになったことも有料化を後押ししました。ただし、オフピーク時にはベビーカー連れも十一SEK(通常の大人は十八SEK)の割引運賃で乗車できます。

この新しいバス運賃システムの導入コンセプトは、財政的なものではなく、「全ての人々に公平・公正を担保する」というものでした。筆者は、増大するバス運営コストを縮減するためでは、と予想していたので、公共交通を税金で運営することに對する考え方や事情が、我が国と大きく異なることを再認識しました。